

我がコロナ感染記

友人に太りすぎ是正策を求めたりしても、「大体、何も悩みを持たずにノホホンとしているからしょうがないんだよ、あなたは」と軽いなされるだけなのですが、それを「なるほど、そうだなあ」と自分の非を認めざるを得ない私です。ですから新型コロナウイルスについても「虫にも好かれぬこの私にコロナウイルスが近づいてくるはずがない」とノホホンとして構えていたのですが、そんな私がコロナに感染してしまっていたんですよ。ノホホンとはしていながらも、外出時には必ずマスクをし、帰宅してからはきちんと消毒液による手洗いをしてきたというのに。まあ、格好の物笑いの種になるかも知れませんが、なにかお役に立つところがあるかも知れませんので、以下の通り一部始終をご報告させていただきます。

抗体検査キットで「陽性」の反応

この初めは1月19日(木)のことでした。「熱はないけど喉に痛みがあるから念の為調べてみようかしら」というカミ様(我が家におけるカミサンの尊称です)の声に「そうだね、私も喉の調子がおかしいから一緒に調べてみるか」と軽く同意したのですが、その実は「この機会に“コロナ業界”の一角をのぞいてみたい」という好奇心があつてこそのものでした。そして、夫婦そろって、行きつけの薬局で1式1,800円の抗体検査キットを3式購入することになりました。そして1月20日(金)。真っ先に抗体検査キットを手にしたカミ様にはっきりとした「陽性」の反応が出ました。「おう、これじゃ私も陽性だな」と思って検査をしたのですがなかなか陽性の反応が出ません。「おかしいなあ」と思っているうちにゆるゆると陽性のサインが出始めました。検体は綿棒を鼻孔から差し入れて収集した鼻汁です。「こんな鼻回りの検体だけでコロナの存在を検知することができるのだろうか」という疑問を持ちながら、検査キットを手に入れた藤沢市の情報センターからご紹介いただいた専門医の元に夫婦そろって駆け込みました。

「YesかNoだけ」の回答を求められ

さてその専門医院の看護師さんのとられている所作はとてもきちんとしていたものでした。「2人そろっての入所はできません。一人ずつ診察を受けている間もう一人の方は外のお車の中でお待ちください」とのことでしたので、まずは私がとばかりに医院の中に入って行って、完全隔離の元で、レントゲン撮影や血液検査を立て続けに受けてから院長室に入室する段となりました。院長先生からは「YesかNoかだけ答えてください」というご指示があつた上でのご下問です。「喉は痛みますか」というご下問に対して、「痛むというわけではありませんが、風邪気味だったため喉の調子がおかしいんです」とお答えしたところ重ねて「YesかNoだけ」のご指示でしたので、あわてて「はい、痛いです」とお答えしました。すると院長先生すかさず「痛みだしたのはいつからですか」と畳み込んでこられましたので、「1週間前くらいからだと思います」とお答えしたところ院長先生急に元気になって、「そう、じゃ、1月13日ですね」と仰いました。後に看護婦さんから手渡された神奈川県健康医療局医療機器対策本部室発文書には「発症日」という表現がありますが私の発症日は、こんな曖昧なやりとりの中から確然と決められたものでした。

コロナについての治療は一つもなし

ところで、院長先生は私にコロナについての治療は一つもしてくださらなかった様子です。僅かに喉をご覧になって「確かに腫れていますね喉が」の一言だけ。レントゲン撮影も肺炎やインフルエンザの罹病の有無を確認するだけのものでは、血液検査も何のためにされたのか訳が分かりませんでした。そして、院長先生の処方によって薬局から出された薬品も、鎮咳薬と咽・喉頭痛薬の錠剤2種、うがい薬にトローチといった普通の喉の治療薬ばかり。「そうか、コロナ治療薬はまだ開発されていなかったのだ！」と現実を思い知らされ、改めて「入院して療養を受けておられる人たちはどのような治療薬を服まされているのだろうか。」と心配になりました。きっと対症療法的に痛み止めの薬なんかを処方されているうちにコロナの姿が消えるのを待つしかないんでしょうね。

神奈川県感染者リストに登録された

私たちのコロナ陽性を告げた抗体検査キットは一目も触れられず、PCR 検査を神奈川県当局に依頼するということで検体を採取するよう指示があっただけのことでした。そしてこの検体というのが先に自主的に用いた抗体検査キットの場合と全く同じで、綿棒を鼻孔から差し入れて収集した鼻汁です。再び「こんな鼻回りの検体だけでコロナの存在を検知することができるのだろうか」という疑問を持ちましたが、翌日医院から「お二人とも陽性と判定されました。感染者リストにお二人を登録します。」という電話連絡があり、二人が 1/23 の神奈川県の感染者数 2,194 人のうちの 2 人となりました。私がかねてもっていた「感染者数は検査回数に比例する」という仮説の正しさが示された形ですが、私たちと同様に、自覚症状がないまま、コロナと無縁だと思っておられる皆さんが PCR 検査を受けることになると感染者数が大幅に増えることと思います。

“療養生活らしい暮らし”で禁酒も断行

正式に感染者として登録されたとあって私は、医院で看護婦さんから手渡されていた文書「新型コロナウイルス感染症と診断された方へ」(神奈川県健康医療局医療機器対策本部室発行)に改めて目を通してみました。そしてそこに「無症状の方は検体採取日から 7 日間」と「症状がある方は発症日から 7 日間」という表現があるのでオヤツと思いました。私は院長先生があれほど「発症日は 1/13」と決めつけられたのですから、もう私の療養期間はもう終わっているじゃないか。そして、院長先生は「私に無症状の可能性あり」と考えておられるのかなと迷いました。いずれにしても、自由な質疑ができず院長先生のお考えを都度“憶測”しなければならないのは辛いところですが、先ずは十分すぎても構わないから療養生活らしい暮らしをしてみようと心に決めました。しかし、「療養」とは「病気や怪我の手当てをし、体を休めて健康の回復をはかること」ですが、“コロナの手当て”らしいところは何一つなく、もともと健康だったのですから“健康の回復”もできるわけではありません。しかし、院長先生からは一言もなかったのですが何故か薬局の方から「禁酒」を申しつけられていたので「折角の機会だから」と受け入れて、1 週間 1 敵も飲まずの「超療養生活らしい暮らし」を断行し、「自分はアル中患者ではない」という確信を持つことができました。

“憶測”による療養解除の理由判断

そして自発的に長い方の「無症状の場合の療養期間」を極めて慎重に気配りして過ごしてから、1/26 に 2 回目の入院をしました。院長先生は、およそコロナ治療とは関係のなさそうな血液検査カード 4 枚を手渡した後で喉を診て「本当に風邪で喉を傷めていたみたいですね。本日にて療養解除です。再度検査をして陰性であることを確認することはしません。」ときっぱり宣言されました。「ほうらね、先の“Yes か No だけの回答”を求められた際に私の実情を聴いてくださっていたら私が無症状組だということはお分かりいただけていたはずなのに。」と内心でポロリ。更に「神奈川県健康医療局医療機器対策本部室発行文書によると、無症状の場合は“検査陰性”の過程を経て療養解除になるはずなのだが、検査無用とするのはヘンだな。ことによると、ここでは私を有症状組扱いされたのかなあ」といぶかりながら、ここでも次のような院長先生の判断過程について“憶測”をして自分を納得させました。

- ① 私にとりついたのは変種株コロナウイルスであった
- ② 変種株コロナウイルスは、細胞の外郭に取りつくことはできるが、ワクチンに阻まれて、細胞内部に入り込んで炎症を起こすことはできない
- ③ 養分を摂ることもなく 7 日間細胞の外郭に取りついたままであったコロナウイルスはすっかり死滅した。

日本には“医療上の筋の通った見解”が不在なのだ

しかし翻って考えてみれば、コロナ患者側ばかりでなく、医療体制の方にも数々の対症療法を通じて得られた“憶測”に基づいて判断されているところが多いようです。そもそも、このパンデミックが伝わった時に日本政府が取るべき行為は、政治家大臣がトップに立って、関係諸官庁のコロナ関係業務の責任者と医療専門家が常駐したプロジェクトチームを編成することだったのではないかと思います。こうした政策立案遂行集団を背景に持たなかったために途方に暮

れた安倍晋三元首相が打ち出した窮余の総理大臣施策が、なんと情けないアベノマスクと1世帯当たり10万円の特別定額給付金の給付だったわけですね。特に医療専門家が新型コロナウイルス対策本部に在籍していないことが現在の“医療上の筋の通った見解が不在”の事態をもたらしたのではないかと見ています。

輸入ワクチンの評価も仕入れ先業者任せになっている

最初にコロナ・ワクチンを接種した医院の机上に「有効率 90%(ファイザー社データによる)」と書かれた貼り紙がされていたのを思い出します。つまり、輸入ワクチンの評価が仕入れ先業者任せになっているわけですね。コロナ・ワクチンの発売には基礎研究や基礎実験の先行実施が必要ですから、日本の製薬会社による開発は支援することはできなかったのはやむを得ないところだったのですが、アベノマスクや特別定額給付金の給付などに巨費を投入する代わりに、プロジェクトチームメンバーの医療専門家が乗り込んでいって輸入ワクチンの有効率(どんなタイプの人に効果がないのか)や有効期間(1回接種したワクチンが効果を保ち続ける期間はどれほどか)などを徹底的に吟味するための投資を行う必要があったのではないかと考えています。私は5回にわたってワクチンの接種を受け続けてきているのですが、「このような僅かな接種量で長い有効期間中効果を保ち続けることができるのだろうか。特に体の代謝機能が旺盛な場合は有効期間も短くなるのではないか。日本ではこれまでに、8波に渡るコロナ感染者激増期を迎えたが、これは有効期間を長くみすぎているせいではないのか。」と“憶測”し続けてきました。

軽はずみな岸田首相の「5類」への引き下げ案

こんなモヤモヤした経験を国民や医療当事者が重ねている傍らで、政府筋がコロナウイルスの感染症法上の分類を季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることを実施しようとしていますね。実態分析が不得手な岸田首相が、恐らくアメリカの疾病対策予防センター(CDC)の発表した「未接種、2回、3回、4回とワクチンの接種回数が増えると、感染率が29%、33%、38%、41%」というデータを浅読みして、「コロナのワクチンは打てば打つほど感染者が高くなる」、更に「国民に対するワクチンの無償接種は無用である」と考えて、財政上の大負担になっているコロナワクチン接種を排して、自らが打ち出している無益な軍事力の飛躍的な向上のための原資に振り向けようとしているのが目に見えるようですね。本当にコロナワクチンの無償接種は無用なのでしょうか。現に私たち夫婦の場合は、多分変種株ウイルスが細胞に取りついたのでしょうが、きちんとワクチン接種を重ねてきたお陰で無症状のまま凌ぐことができたのです。ことによると、諸兄姉にもお気づきにならないまま今ウイルスが取り付いているのかもしれないよ。コロナワクチンの無償接種なかりせば、潜在的にひろく分布している無症状感染者の有症状化が圧倒的に拡大し、その療養のための病床確保が至難に至るといことが予想されます。また、これまでの8波に及ぶ感染者急増の波を都度抑止できたのも「コロナワクチン接種率の向上」が背景にあったということは間違いがないところだと思います。岸田首相は今後9波以降は発生しないと切り切れるのでしょうか。

「正しく恐れる」姿勢を取り続けていこうではありませんか

先ず何より、コロナによる「死亡者数が今なお最多水準にある」ということに留意する必要があります。感染症法上コロナウイルスと同じ「2類」に位置付けられている結核にはBCGワクチンと並んで治療薬ストレプトマイシンが開発されたという歴史があるのですが、未だ治療薬が開発されていない新型コロナウイルスをなぜ「5類」に格下げしようとしているのか理解することができません。しかし、国際情勢ばかりでなく医療情勢もよく見極めることができない政治家たちばかりですので、程なく岸田首相の軽はずみな「コロナウイルスの5分類化計画」が国会で承認されて現実化されていくことでしょう。そして、いくいくその被害を受けるのは私たち国民です。私たち自身だけでなく、お子さん、お孫さん、ご親戚、お知り合いの皆さんに呼び掛けて、無責任かつ軽はずみな岸田首相の発言に惑わされることなく「正しく恐れる」姿勢を取り続けていこうではありませんか。

(完)